

令和3年度第4回「弥富市地域公共交通活性化協議会」 議事録

日時：令和4年3月29日（火）

午後2時から

場所：弥富市役所本庁舎3階 大会議室

○議 事

1. 開会

事務局 (藤井課長)	<ul style="list-style-type: none">・ただいまから、令和3年度第4回弥富市地域公共交通活性化協議会を開催する。・本日の協議会は、委員総数21名のうち、18名の出席をいただいております、協議会規約第9条第1項に定める半数以上の定数に達しているため、会議が成立していることをご報告する。・当協議会は協議会規約第9条第3項により会議を公開とする。
---------------	--

2. あいさつ

事務局 (藤井課長)	<ul style="list-style-type: none">・最初に、安藤弥富市長よりご挨拶をいただく。
安藤市長	<ul style="list-style-type: none">・本日は、年度末の大変お忙しいなか令和3年度第4回弥富市地域公共交通活性化協議会に出席いただきまして誠にありがとうございます。また当市の交通行政に対し、それぞれのお立場でご理解、ご協力を賜り感謝を申し上げます。・令和3年度も残すところ数日となってきたが、依然として新型コロナウイルスの影響が各方面に及んでいる。3月21日に愛知県では、まん延防止等重点措置が解除となったが、それによって私たちの心の中ではすべてがフリーになったという感覚があるが、決してコロナが収束したわけではない。引き続き感染防止に徹底していただくようよろしく申し上げます。・本日の議題については、令和4年度の協議会の事業計画案や予算案、南部地域における第2期社会実験運行、南部ルート再編案のデマンド型乗り合いタクシーの社会実験案を追加で示している。・デマンドの導入については、様々なご意見をいただいているが、本当に難しい問題・課題である。先日も中日新聞に掲載されていたが、全国で多くの市町が導入しているが、導入すればすべての課題が解決するとは限らないので、慎重に進めていかななくてはいけないと考えている。・本市の公共交通にとって、また、市民にとって何がベストであるかを、本日委員の皆様と一緒に考えていきたい。忌憚のないご意見を頂戴したい。よろしくようお願い申し上げます。

3. 資料確認

事務局 (藤井課長)	・ 本日の会議資料の確認を事務局より願います。
事務局 (富居)	<p>会議資料の確認をする。</p> <p>事前にお送りした資料として、</p> <p>資料1：令和4年度弥富市地域公共交通活性化協議会 事業計画(案)</p> <p>資料2：令和4年度弥富市地域公共交通活性化協議会 予算(案)</p> <p>資料3：第2期南部地域社会実験運行バス（南部地域通学通勤バス）について</p> <p>資料4：南部地域公共交通網再編について</p> <p>参考資料1：利用者実態調査結果</p> <p>参考資料2：令和3年度地域公共交通確保維持改善事業の二次評価について</p> <p>第2期南部地域社会実験運行バス（南部地域通学通勤バス）チラシ</p> <p>また、本日机の上に、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 配席表 <p>をお配りしている。</p>
事務局 (藤井課長)	・ 以降の議事を山崎先生に願います。

4. 議題

(1) 令和4年度事業計画(案)及び予算(案)について

山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> ・ だいぶ暖かくなってきた。会議の前に委員の皆さんが「桜がだいぶ咲いてきた」という話をされていて、まちに出やすい季節になってきた。きんちゃんバスもそういう時に利用していただくとよい。 ・ 市長から、何が市民にとってベストかと言われたが、なかなかベストを探すのは難しいが、よりベターなもの、よりよいものを維持できればと思うので、みなさんご意見を願います。 ・ 今日の議題、まずは令和4年度事業計画（案）及び予算（案）について、こちらは審議事項となっているので、後ほどみなさんに審議いただきたい。 ・ 資料1と2の説明を事務局から願います。
事務局 (富居)	<p>○資料1説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 資料1事業計画（案）について説明する。 <p>1. 弥富市コミュニティバス運行について、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ きんちゃんバス北部、南部、東部の3ルートの実行を継続。国の「地域公共交通確保維持事業」という補助事業のうち、地域内フィーダー系統補助を活用し運行する予定である。 <p>2. 運行評価について、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 乗車人員調査を実施し、地域公共交通確保維持改善事業に係る事業評価を実施する。

	<p>3. 利用促進策の展開について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎年実施している無料お試し乗車券の配布など、令和3年3月に策定した弥富市地域公共交通計画に位置づけられた利用促進策を展開する。また、学校教育課と共に児童・生徒に対して利用促進策を実施できないか検討する。 <p>4. 令和5年度地域公共交通確保維持改善計画の策定について、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和3年3月に策定した弥富市地域公共交通計画のほか、これまで策定してきた地域公共交通確保維持改善計画や令和3年度事業（自己）評価結果、利用実態等を踏まえ、令和5年度地域公共交通確保維持改善計画を策定する。 <p>5. 南部ルートの再編検討について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第2期社会実験運行を令和4年8月末まで実施する。また、利用者アンケートを実施し利用特性等を把握し、利用者数等の運行実績も踏まえた評価を実施する。そのほか、南部ルートの再編検討として、令和5年4月からの社会実験運行の開始を目標に、住民意見交換会を適宜開催しながら再編案を検討する。 <p>6. 東部ルートの再編検討について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・南部ルートの再編案も踏まえ、住民意見交換会を適宜開催しながら東部ルートの再編案を検討する。 <p>7. 運行時刻表の作成・印刷について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鉄道、周辺自治体が運行するコミュニティバスのダイヤ改正を踏まえ、運行時刻表を作成・印刷のほか、Yahoo!の路線情報などの乗り換え検索サイト等に使用する GTFS データというバスの運行に関するデータを更新する。 <p>8. 協議会の開催について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予算・決算、運行の検証や弥富市地域公共交通計画の今後の見直しの方向性等の検討のため、協議会を開催する。 ・協議会の開催と作業の概ねのスケジュールなどを3ページに示している。協議会は計4回を予定しており、作業の進捗にあわせ、適宜開催していく。 <p>○資料2説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度予算（案）について資料2を基に説明する。 <p>まず歳入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1款負担金 弥富市負担金として、1億1,997万円 ・4款諸収入1項預金利子 1千円、2項雑入 地域公共交通確保維持改善事業補助金事業者精算金として801万8千円 ・計 1億2,798万9千円 <p>続いて歳出。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1款総務費 1項総務管理費 1目会議費 会議資料等として1万円 ・2目事務局費 振込手数料等として4万円 ・2項諸費 地域公共交通確保維持改善事業補助金事業者精算金・負担金
--	---

	<p>精算返納金として 801 万 8 千円</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2 款事業費 1 項事業推進費 1 目事業推進費 バス運行事業・公共交通確保維持改善調査業務委託費として、1 億 1,847 万円 ・ 2 目広報公聴費 時刻表・路線図等印刷費、啓発物品購入費として 145 万円 ・ 3 款予備費 1 千円 ・ 計 1 億 2,798 万 9 千円 となる。 <p>・ 令和 4 年度弥富市地域公共交通活性化協議会 事業計画及び予算（案）については、以上となる。</p> <p>・ ご審議をよろしく願います。</p>
山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> ・ ただいま説明いただいた令和 4 年度事業計画（案）及び予算（案）に関して何かご意見、ご質問あれば願います。
鈴木委員 （愛知運輸支局）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 運行評価は、国に補助金のことをいっている。国の制度上の事後評価をするということ。活性化再生法が改正され、公共交通計画の評価を毎年実施することになっているが、評価の時期は国が示しているわけではなく、それぞれの市で評価を行うルールである。令和 5 年度地域公共交通確保維持改善計画を策定するにあたって、交通計画がどのように進んでいるかということの評価していただくと見やすくなる。 ・ 補助金の評価で、この協議会から評価書を出していただいている。国の第三者評価委員会が 2 月に開かれており、速報として紹介させていただく。 ・ 評価されたポイントは、住民の意見交換会をきめ細かく行っていることが評価されていた。今後の期待することは、南部ルートについては、社会実験を行ったことの検証、今後の再編を効果的に考えていただくこと。東部ルートについては、飛島村が蟹江までバスを走らせている事情もあり、地域間幹線系統という別の補助金がでているので、棲み分け等を意識しながら最適化を目指してほしいということで評価されている。
山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今ご紹介いただいた評価の結果は参考資料 2 にある。 ・ 活性化協議会の事業計画について事務局はよいか。
事務局 （富居）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今年度から公共交通計画についても毎年評価をすることになっていて、その記載がもれているがしっかりやっていく。
山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 公共交通計画の評価もここに入れていくということである。
永井委員 （弥富市福寿会 連合会会長）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業計画に東部ルートの再編検討とあるが、どんなことを再編・検討していくのかお聞きしたい。
事務局 （富居）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 東部ルートについては、数年前にも見直しを行おうとした経緯があるが、結果的には現状と変わっていない。 ・ 令和 3 年 3 月に策定した弥富市公共交通計画に基づき、住民意見交換会等を開きながら、まず南部地域から、次に東部、北部と順に再編を行うことになっている。 ・ 令和 3 年度は南部を中心にやってきて、令和 4 年度は南部に加え東部も

	<p>行っていく。東部は便数が少ないという意見をいただいているので、その辺を踏まえて検討をしていきたい。</p>
山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 随時やっっていこうということである。
鈴木委員 (公募委員)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 3. 利用促進策の展開について、これは値引きと金銭負担の軽減という金銭面での施策だが、(3) その他利用促進策の展開について、これ以外に過去の協議会においてソフト面で行った利用促進策はあるのか。また、企画した経緯はあるのか。なければ、乗ってもらうためのソフト面で利用促進の企画や会議等、マーケティングのプロの意見を聞く、広告宣伝に詳しい人に話を聞く等、利用促進の案を話し合う機会があってもよい。 ・ 今のような桜の季節に合わせた企画があってもよいのでは。 ・ 住民意見交換会は、地域の人声を聞く大事なことであるが、乗っていない人の意見が強く、実際に乗っている人の意見はなかなか聞けない。乗っている人の意見を吸い上げるチャンスをつくれぬのか。
事務局 (富居)	<ul style="list-style-type: none"> ・ きんちゃんバスの立ち上げの当初から、春まつりでの車掌・バスガイドのチャイルド制服体験や、その他、きんちゃんバスのノベルティグッズ、貯金箱、ぬり絵等を作成してきている。 ・ 最近では、新型コロナウイルスの影響でなかなか啓発の機会がないというのが現状である。 ・ バスの乗り方教室などの児童・生徒向けの啓発については、学校教育課と相談しているが、具体的な企画については今後検討する。 ・ 乗っている人の声は、市役所窓口において、回数券や定期券の販売の際や、75歳以上の無料パスを受け取りにこられた方に、バスについてのご意見を伺っている。また実際にバスにも乗っているが、もう少し力をいれていきたい。
山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中高生が買ってくれるようなデザインの定期券があればよいという話はしている。 ・ 観光系の部署も一緒に検討するとよい。 ・ 以前、スイーツのマップを作っていたこともある。 ・ 令和4年度事業計画(案)及び予算(案)について承認いただける方は挙手をお願いします。
	(全員挙手)

(2) 第2期南部地域社会実験運行バス(南部地域通学通勤バス)について

山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第2期南部地域社会実験運行バスについて、前回の協議会で承認いただき、4月1日から開始されるので、最終的な内容について報告いただく。 ・ 事務局から資料の説明をお願いします。
事務局 (富居)	<p>○資料3説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 第2期南部地域社会実験運行バス(南部地域通学通勤バス)について、資料3を基にご説明する。

	<ul style="list-style-type: none"> ・第2期運行の概要について。 ・名称は前回の協議会でも議論になったが、急行バスという名称をやめ、第2期運行では「南部地域通学通勤バス」という名称に変え、運行の目的に合わせた名称に変えている。 ・基本的に誰でも利用は可能なため「通学通勤以外にも便利」や「誰でも利用できる」などの文言も入れてある。 ・サイクル&バスライドなどカタカナ語が難しいなどの意見も協議会でいただいていたので、チランの路線図中では、例えば愛知黎明高校であれば「駐輪場が使える!」、南部コミュニティセンターであれば「駐車場が使える!」「送迎に便利!」など、比較的誰にでもわかりやすいような言葉で表現としている。 ・そのほか、第2期運行についてもバスデータのGTFSデータを更新し、乗り換え検索サイト等にも対応する予定である。 <p>・2. 利用状況について。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者数は運行開始から約6ヶ月半の間において3,516人の方にご利用いただいている。 ・1月の1日当たり37.4人が最も多くなっており、1月以降はまん延防止措置の指定により、愛知黎明高校では休校や時差登校、短縮授業等が実施された影響が顕著に出ており、利用がかなり落ち込んでいる。 ・バス停別乗降者数について、各月とも傾向は同様で、近鉄弥富駅南口と愛知黎明高校バス停の利用が非常に多くなっており、南部コミュニティセンターの利用もわずかだが見られる。 ・便別利用者数では青色が南部コミュニティセンターから近鉄弥富駅南口方面へと北上する便、緑色が逆方向の南下する便となっている。 ・こちらも各月とも傾向は同様で、朝一の実験1便、駅方面に北上する便の利用はほぼなく、朝便の多くは駅から愛知黎明高校、夕便はその逆方向の利用が多くなっている。 <p>・参考資料1の利用者実態調査結果について。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実験便も含めたきんちゃんバス全体の利用者数は、10月以降は前年度より増加する傾向が続いている。 ・3月の実績が加味されていないが、前年度よりも利用者は多少多くなり、コロナ禍以前と比較し8割程度の利用者になるのではないかと予想している。 ・それぞれのルートを見ると、北部ルートは昨年度とほぼ同等程度、南部ルートは増加、東部ルートは微減か同等程度の利用者になるのではないかと予想される。また、最後のページの社会実験運行をしている南部急行バスは1月まで順調に増加していたが、2月に減少している。 ・南部ルートについては利用者も増加していることから、実験運行バスへの転換による影響は少なく、実験運行バスは愛知黎明高校生を中心とし
--	--

	た新たな利用を生み出しているものと考えている。
山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 4月1日から始まる第2期の最終的な内容、現在続いている第1期の運行に関する報告があった。 ・ ご意見ご質問があればお願いします。 ・ 参考資料1の南部急行バスのグラフについて、2月が少ないのはどういう理由か考察はできているのか。
事務局 (富居)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 南部急行バスはほとんどが愛知黎明高校生という実態があり、まん延防止等重点措置の指定が令和4年1月21日から3月21日までであり、愛知黎明高校では、休校や時差登校、短縮授業が実施されたため、2月が落ち込んでいると思われる。
山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第2期が4月1日からであるが、広報は十分にできているのか。
事務局 (富居)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 南部地域の大藤学区と栄南学区にはチラシを各戸配布している。 ・ ホームページ、近鉄・JR駅にポスター掲示、公共施設にチラシとポスターを配布している。
山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> ・ そこ（広報啓発）が心配なところである。

(3) 南部地域公共交通網再編について

山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 南部地域公共交通網再編について、こちらも協議事項になる。本日審議いただくわけではないが、ご意見をいただき方向性を定めていくということである。 ・ 事務局から資料の説明をお願いします。
事務局 (富居)	<p>○資料4説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 南部地域公共交通網再編について、資料4を基に説明させていただく。 ・ 先回の第3回協議会でお示しさせていただいた第1案と第2案について5ページ目までに示している。この内容については特に変更はない。 ・ 今回、新たに第3案として、6ページ、7ページに示している。第3案は、既存の路線型運行を維持しつつ、日中の時間帯はデマンド運行を導入するというような案になっている。 ・ デマンドについては運行を週2回程度にするなど第1案よりも運行頻度を下げ、お住まいがバス停まで遠い方の買い物、通院、公共施設利用等の需要に対応することを考えている。 ・ 事務局内でも第1案や第2案の内容について議論を繰り返したが、現在のきんちゃんバスの利用者の8割程度が高齢者であることを踏まえると、いきなりデマンド運行といった、これまでと全く利用方法の異なる公共交通を導入しても、利用を敬遠されてしまうのではないかという懸念があった。 ・ 市役所窓口に、きんちゃんバスの定期券や回数券を購入にみえた方や、75歳を迎えて無料パスカードを取りにみえた方に、デマンド運行導入に対するご意見をお聞きしようとしても、デマンド運行に対するイメージがわからないようで、きんちゃんバスからデマンド運行に移行していただけるかお聞きする以前に、デマンド運行の是非の判断材料がないという

	<p>印象を感じている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あくまでも既存のきんちゃんバスの運行は残しつつ、新たな移動手段の判断材料の選択肢としてデマンドを導入してはどうかということで第3案を考えている。 ・第3案のデマンドについては、運行事業費を抑制する必要もあることから運行を週2回程度にするなど第1案よりも運行頻度を下げること考えている。 ・今後は、この3つの案を基に地元で意見交換会を開催し、その中での議論を通して1つの案をまとめ上げ、この協議会の場で最終的な議論ができればと考えている。 ・8ページの今後のスケジュール案について、令和5年4月からの実証運行開始を考えている。 ・運行許可の申請などに係る期間を踏まえ、そこから遡っていくと、最終的な協議、審議は12月ごろに開催される第3回協議会となる。 ・それまでに第1回、第2回協議会もあり、計3回の協議会で運行内容を決めていただければと考えている。 ・より具体的な運行内容を検討していく必要もあるので、7月から8月には運行事業者も決定したいと考えており、それまでの期間に重点的に意見交換会を開催し、運行の方向性を検討できればと考えている。
山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> ・第1案、第2案についてもう一度説明をお願いしたい。メリット、デメリットがあって最終的に第3案になったということを説明してほしい。
事務局 (藤井課長)	<ul style="list-style-type: none"> ・第1案については、北が大藤学区、南が栄南学区であり、この2学区で面的にデマンドを導入する形である。 ・既存の路線はやめて、面的にデマンドを導入し、急行便としての幹線ルートを残し臨海部へ朝・夕のみ運行するというイメージ。事務局案としては、南部コミュニティセンター等の結節点に人を運びバスを利用してもらうという案を提示したが、中心部へ向かう形がよいという意見をいただき、バス停（結節点）に向かうのではなく、中心部まで直接行けるような案とした。 ・第2案については、大藤学区は既存のバスを残し現在のルート短縮し、栄南学区のみにデマンドを導入する形である。通勤通学の利用者をそれぞれの目的地へ運ぶために木曾岬町や飛島村のバス停まで、デマンドを利用して運行するという案。 ・大藤学区については、バスの利用で十分であるという意見や、バス路線を短縮することによって、頻度も人数も増えるというメリットもあったためこの形を提案した。 ・栄南学区については、飛島バス、木曾岬町バスへつながるような運行で提案した。 ・第3案については、デマンドのイメージがわからないということで、説明しづらい部分もあり、実際にデマンドを体験していただきながら現在のきんちゃんバスと比較しメリット・デメリットを乗っていただき経験

	<p>していただきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まずは週2からスタートする形で提案する。
山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> ・南部ルートは、利用者が一番多いルートであるため、いきなり路線をやめてすべてデマンドにというのは、やさしくないという判断での第3案である。
鈴木委員 (愛知運輸支局)	<ul style="list-style-type: none"> ・デマンドのイメージがわからないということはよく聞くことである。安いタクシーといった捉え方はせずに、乗り合っていく乗り物というイメージ。相乗りタクシーも出てきているので制度上、明確な区分ができなくなっている。よくある形としては、一乗車いくらで、呼べば来てくれる乗り物。目的地が定められている形。 ・デマンドで何が達成できるのかが一番大事なところである。南部の方がどこに買い物に行きたいか、どこに通院したいか、それはいつかということデータをほしい。 ・運送区域を設定していただくことになるが、区域の中に乗降所を設置し、どう走るかを決めていただく。 ・第1案、第3案と第2案で運賃に差がある。目的地がどこにあつて、自宅から往復する場合にいくらかかるのかを見ながら利用を想定していかないと、定期券等いろいろな利用促進の設定ができなくなる。
事務局 (富居)	<ul style="list-style-type: none"> ・いつ、だれがどこに行きたいかというのは、重要だと思う。 ・目的地やミーティングポイントについては、住民意見交換会で意見を聞いて今後組み立てていきたい。
山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> ・意見交換会で乗降所等は決めていくということか。
事務局 (富居)	<ul style="list-style-type: none"> ・そうである。
永井委員 (弥富市福寿会 連合会会長)	<ul style="list-style-type: none"> ・デマンドについては、話を聞いたことはあるが見たことがない。全国でやっているらしいが、うまくいっていないところが多いらしい。何がうまくいっていないのか。このままいって利用者がいるのか。 ・近隣では飛島村さんがやっているそうだが、状況を教えていただきたい。
加藤委員 (飛島村役場総 務部長)	<ul style="list-style-type: none"> ・飛島村では、デマンドという形で行っている。 ・鈴木委員からお話があったが、目的地を明確にしており、海南病院への通院・お見舞いと決まっている。 ・どこから出発するかというのは、村内に多くのバス停を設けており、そこからタクシー車両を使って乗り合いを意識したデマンド型を運行している。 ・平成21年から始めており、利用者は周知が進むにつれて増えていくものである。コロナの関係でお見舞いの数も減っており、多い時で年間900人の利用である。最近では600から700人ほどである。 ・デマンドであるので、予約をいただき、予約がなければ運行しない。 ・料金は、片道500円である。
永井委員	<ul style="list-style-type: none"> ・平成21年からやっているということだが、タクシー会社との折り合いと

<p>(弥富市福寿会 連合会会長)</p>	<p>か金額の面はどうなっているのか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予約の受付はどうなっているのか。タクシー会社に電話をするのか。 ・予算的にはどうだったのか。
<p>加藤委員 (飛島村役場総 務部長)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・法律上、乗り合いという形をとるにはタクシー事業者に許可をとっていただく必要がある。許可を持っているタクシー事業者という条件がある。 ・金額の面は、タクシー事業者との個別の話合いになる。 ・予約の方法は、通常タクシーを予約するのと同じである。バス停、時間が決まっているので、乗車の2時間前までの予約が可能であるので、それほど手間がかかることはないと思う。 ・タクシー車両を使っているが、乗り合いであるので、一回の車両に複数で乗っていただければという思いで、時間を決めている。時間を自由にするとばらばらになってしまうので、時間を決め乗り合いを意識した運行になっている。 ・一台に複数の方が乗り合っていただければ、効果的な費用対効果が出ると思っているが、なかなかうまくはいかないため、行政側の負担も若干ある。
<p>山崎議長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・デマンドにしても運行経費や行政の負担が変わらなかつたりする。 ・面的に使いやすいサービスを提供するには、デマンドは乗車場所をたくさん作れるので、自宅の近くから乗車できるので利便性はよくなる。 ・予約が必要であるためハードルが高くなる。
<p>鈴木委員 (愛知運輸支局)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・飛島村さんのおっしゃるとおり、乗り合いの事業許可が必要である。市町から委託をすることになるので、契約はきんちゃんバスと同じ。競争入札・指名入札など、市のルールでやっていただく。 ・いろいろ見てきているが、契約したらそこで行政は終わりというのがいちばんよくない。知っている人だけが使うため固定客となってしまう。 ・以前、東三河でデマンドの導入とタクシーに補助金を出す方法で、行政の負担を試算したことがある。ある地域では、タクシー補助が安いという結果が出た。停留所から停留所へ、自宅から自宅へ運ぶなどいろいろな方法がある。 ・誰が、いつ、どこへ行きたいのか。何の目的を達成するのが一番大切であり、それがいくらかで達成できたかを評価することが費用対効果ということになってくる。何でもやればよいということではなく、2案も悪くはないと思うし、他にも方法があると思う。 ・岐阜県大野町においても、岐阜病院へピンポイントで運んでいるので、弥富市においても市内だけにとどまる必要はない。本当に救わなくてはいけない人たちを救っていく必要がある。 ・予約のシステムについても、タクシー会社に電話をするケース、スマートフォンでの予約等何を選択するかをよく考えていただきたい。
<p>山崎議長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今紹介していただいたもののほかにも、豊田市内に地域タクシーというものがあり、乗り合いではなく一般乗用のタクシーで時間貸しというシ

	<p>ステムがある。1回3,500円で利用者は300円支払い、残りは市の負担となるが、利用者が少ないところはその方が安くなる。乗り合いは委託するので、バスと変わらない費用がかかる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな方法があるので、地域タクシーも検討していただき調整してほしい。
多田委員 (名古屋タクシー協会専務理事)	<ul style="list-style-type: none"> ・デマンドが話題になっているが、全国のデマンドタクシーの事例を名古屋タクシー協会のホームページで案内しており、かなりの数の事例があるので地域の特色あるアイデア等が網羅されているが、そのまま真似ても成功には結びつかない。 ・鈴木委員がおっしゃったように、地元が何を必要とするのか、目的をはっきりさせないと運行形態は変わってくる。 ・資料4③再編後の運行経費は現状と同程度を目標とするとある。デマンドに変えて、運行経費は減ったが利用者も減ったとなると、減った人たちはどうしているのかが大きな問題である。お金を優先するとそういう結果になる。 ・借り上げにて、常時予約のために車両と人を確保することになると、人件費がかかる。委託先の事業者が変わるだけで経費は変わらないということになる。空いているタクシーを上手く活用して通常のタクシーとして使う中で、自治体がタクシー会社の利益をカバーしていく工夫、一車当たりの金額を固定にするなど、どの方法で費用対効果が上がり、利用者に満足してもらえるのが大切である。 ・タクシー事業者は、知識・経験があるので、どのようなオーダーがあるのか、将来はこうしていきたいということを明確にしていれば、タクシー事業者も協力できる。
事務局 (藤井課長)	<ul style="list-style-type: none"> ・昼間空いているタクシーを有効活用できないかというところもある。 ・地域性の問題もある。栄南学区は弥富駅までの距離がかなりあり、日常的にタクシーを使う環境にないので、その方々にいかに利用していただくかをPRしていく必要がある。よりタクシーを身近に感じてもらえるよう説明をしていく。 ・目的地についても地域のみなさんに調査していきたい。
多田委員 (名古屋タクシー協会専務理事)	<ul style="list-style-type: none"> ・タクシー業界はコロナの影響で売り上げは大きく落ち込んでいる。人々の人流が抑制されたことが大きな原因であるが、以前から需要は減ってきている中で、コロナが追い打ちをかけたというのが現状である。 ・全国のタクシーが少しずつ減っており、ドライバーも車両もかなり減っている。タクシーは24時間いつでもどこでもというのが基本であるが、夜の運行ができないタクシー会社が全国で増えている。どうすればこの地域にタクシーを残すことができ、住民の方の福祉に対応できるのかを考えていかないとタクシーはなくなる一方である。
山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> ・西三河の北部地区は、タクシーの利用者が少なくなり、国から特定地域になりそうであった。タクシーがなくなると公共交通が全くない状況になってしまうのでうまく活用できればよい。

	<ul style="list-style-type: none"> ・第3案は、現状よりも費用はかかるが試行的にやってみるという案である。 ・現在の路線を残すのであれば、一般乗用でもよいと思う。一般乗用に対する補助という形でもよいので、事業者としっかり話し合ってもらいたい。
鈴木委員 (公募委員)	<ul style="list-style-type: none"> ・料金について、一回乗ると一人300円、500円という想定か。
事務局 (藤井課長)	<ul style="list-style-type: none"> ・現在の案は乗り合いのため、一人500円である。 ・一般乗用のタクシーはひとりひとりの運賃を取れないので、一台に対して500円、600円とかである。三人で乗れば一人200円となる。
鈴木委員 (公募委員)	<ul style="list-style-type: none"> ・導入しようとしているのは、南部地域で地域コミュニティが存在している地域であり、複数人で呼べばお得感があるということをアピールし、料金の設定、見せ方はいろいろある。 ・車両はタクシーを想定しているのか。
事務局 (藤井課長)	<ul style="list-style-type: none"> ・まだ決まっていない白紙の状態である。
鈴木委員 (公募委員)	<ul style="list-style-type: none"> ・導入にあたっては、地元の自治会と連携して買い物ツアーなどを同時に始めてはどうか。 ・デマンドについて、定期的に体験会・講習会を開催してはどうか。
事務局 (藤井課長)	<ul style="list-style-type: none"> ・導入業者等が確定次第、地域で説明会を開催し、デマンドについても丁寧に説明したい。
山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> ・豊田高専の生徒と一緒に、デマンドの予約教室を開いたことがある。愛知黎明高校の学生に協力してもらおうとよいのでは。
鈴木委員 (愛知運輸支局)	<ul style="list-style-type: none"> ・西尾市では、コミュニティで相談して1運行あたりでやっている。乗車人数が多ければタクシー会社にインセンティブがいく制度をとっていた。 ・各務原市では、イオンへ行くためのアテンドをする人がいる。 ・定期的な講習会はいろんなところで行われている。電話での予約が多いということで、携帯電話会社が講習を行っているが、なかなか使いづららしい。美濃市では、代わりに電話予約してくれる方を決めており予約するハードルを下げようになっている。
多田委員 (名古屋タクシー協会専務理事)	<ul style="list-style-type: none"> ・検討段階だが、北名古屋市では高齢者に限って、お出かけタクシーをする予定である。乗り合いではなくタクシーの時間貸しで、利用者を募っており、福祉部門で行っている。 ・今後、交通だけで考えると難しいので、交通と福祉でどうやって連携していくのか、地域の事情・特性を踏まえていくことが重要である。
山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> ・ご指摘いただいた交通部門、福祉部門の連携は、いろいろなところで課題となっている。
百合草委員 (弥富市区長会)	<ul style="list-style-type: none"> ・みなさんが使いやすい方法で決定していただきたい。知らないことがたくさんあるので、資料を提示して有意義な議論していただきたい。
遠藤委員 (民生・児童委)	<ul style="list-style-type: none"> ・弥富市もタクシーチケットを出している。高齢者には年間36枚、障がい者48枚。

員協議会会長)	・免許証返納者にもタクシーチケットをいただけると聞いたがいかがか。
事務局 (安井介護高齢課長)	・高齢者の施策において、タクシーチケットの交付がある。75歳以上の免許証返納者には3年間チケットを交付している。 ・要介護・要支援認定者だけでなく、体の衰えのある方には、基本チェックリストによる聞き取りをし、チケットを交付している。
山崎議長	・現在のタクシーチケットとの棲み分けをはっきりさせる必要がある。
伊藤委員 (公募委員)	・南部地域に住んでいるが、駅まで遠いのでタクシーを見たことはないし、高齢になっても自分で運転するか、家族の送迎に頼っている。 ・遠いのでタクシーは高いというイメージで利用することはないが、補助があつて近所の人と乗り合うことができるのであればありなのかなと思う。高校生にはバスが必要だが、高齢者はあまり見ないのでタクシーを上手く使っていけばよいと思う。
山崎議長	・実際に住んでいる方の声を参考にさせていただきたい。 ・確認だが、実験の第3期ということでよいのか。期間を切って改善していくという位置づけでよいのか。
安藤市長	・令和5年度に半年間の実験を行う。半年では結果は出ないが一番よい方法で実験を行いたい。ベストは難しいがベターを目指していく。 ・乗っていただかなければ意味がないので、多少の経費はやむを得ない。みなさんのご意見をいただきながら、しっかりと社会実験をしていきたい。
山崎議長	・宿題はたくさんあるが、じっくり、しっかりと検討していただきたい。

(4) その他

事務局 (富居)	・令和3年度地域公共交通確保維持改善事業の二次評価について、参考資料2がある。昨年度の事業について中部運輸局が実施した二次評価の結果が裏面に記載されている。 ・内容については、先程、鈴木委員より説明していただいたので、割愛させていただく。 ・二次評価を踏まえつつ取り組みを推進していきたいと考えている。委員の皆様には今後ともご協力をよろしく願います。 ・弥富市ささえあいセンター買い物支援サービスの運行状況についてご報告する。令和3年4月から令和4年2月末まで、プリウスPHVきんちゃんGO!!は合計94回、月平均約8回。シエントふんちゃんGO!!は合計105回、月平均約9回。2台の合計回数は199回、月平均約18回の運行となっている。利用会員の実人数は16人で学区の内訳は、白鳥学区5人、弥生学区5人、桜学区4人、大藤学区1人、十四山東学区1人となっている。協力会員の実人数は14人となっている。 ・報告は以上である。
-------------	---

5. 閉会

事務局 (藤井課長)	・今回で令和3年度最後の協議会となる。 ・委員の皆様、今年度計4回の協議会にご協力いただきありがとうございました。来年度も本協議会については継続していくので、引き続きよろ
---------------	--

	<p>しく願ひする。</p> <ul style="list-style-type: none">・次回令和4年度の第1回協議会は6月27日を予定している。改めてご案内するのでよろしく願ひする。・以上で、第4回弥富市地域公共交通活性化協議会を終わらせていただく。今後ともご協力賜りますようお願い申し上げます。
	以上